

第 4 回 館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和60年12月17日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番	神田 守隆	2 番	田沢 勝信
3 番	山中金治郎	4 番	小宮 利夫
5 番	横溝 功	6 番	生稻 陸
7 番	榎本 春光	8 番	日下 君敏
9 番	福原 勤	10 番	川名 正二
11 番	飯田 義男	12 番	石井 謀
13 番	石井 昌治	14 番	伊藤幸太郎
15 番	渡辺 昭夫	16 番	松下 正己
17 番	近藤 好雄	19 番	黒川 平治
20 番	石井 武敏	21 番	吉田勇治郎
22 番	林 豊	23 番	伊賀 多朗
24 番	流山源次郎	25 番	五十嵐 昇
26 番	石井 正	27 番	安西 益男
28 番	安澤 徳順		

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 半澤 良一
収 入 役 山田 俊康
総務 部長 川畑喜代志
経済 部長 吉岡 政雄
教育委員会 高橋 弘之
教 委 員 会 長

助 役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生 部長 鈴木 力
水道 課長 石井 敏夫
教育委員会 福原 修
教 育 委 員 会 長

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和60年12月17日午前10時開議

日程第1 議案第53号 千葉県競輪組合を組織する地方公共団体の
数の増加及び千葉県競輪組合規約の変更に
関する協議について

- 日程第2 { 議案第54号 館山市基本構想を定めることについて
 議案第55号 損害賠償の額の決定及び和解について
 日程第3 { 議案第56号 昭和60年度館山市一般会計補正予算(第3号)
 議案第57号 昭和60年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
 議案第58号 昭和60年度館山市ユースホテル特別会計補正予算(第1号)
 日程第4 請願第6号 農業用水からの流水占用料徴収反対に関する請願書
 日程第5 請願第7号 半澤市長問責決議及び監査の請求を求める請願書
 日程第6 請願第8号 国立病院・療養所の存続・拡充を求める意見書の提出を求める請願書

開 議 午前10時02分

○議長(流山源次郎君) 本日の出席議員数26名、これより第4回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長(流山源次郎君) 日程第1、議案第53号千葉県競輪組合を組織する地方公共団体の数の増加及び千葉県競輪組合規約の変更に関する協議についてを議題といたします。

御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長(流山源次郎君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御

異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論を行います。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長(流山源次郎君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(流山源次郎君) 日程第2、議案第54号及び議案第55号を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長(流山源次郎君) これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

27番議員安西益男君。御登壇願います。

(27番議員安西益男君登壇)

◎27番(安西益男君) 議案第54号館山市基本構想についての御質問を申し上げます。

質問の内容については、おおむねその骨子を御報告いたしてありますので、率直なる御答弁をお願いいたします。

計画策定にあたっては、国、県等の関連性を確保し、現在予測し得る限度の可能性をもって策定されたものと認識しております。

第2章、館山市将来像では、「東京湾横断道路の建設や成田国際空港都市、幕張メッセを核とした幕張新都心、上総新研究開発都市を結ぶ千

葉新産業三角構想があり、画期的な時代を迎えようとしている。館山市のまちづくりはこのような背景を踏まえ」とあります。今、千葉県では世界の千葉、国際文化都市千葉を目指して21世紀に向け大きく変貌しようとしております。あらゆる分野での21世紀に向けてのさまざまな計画がされつつあります。限りない飛躍が期待されると思うわけでございます。

さて、21世紀到達への館山市の将来像について御質問申し上げるわけでございますが、説明書の12頁、「快適でゆとりある生活環境都市をめざして」というところでございますが、道路、交通体系についてであります。東京湾横断道路の完成にあわせて各国道の早期完成と相まって館山市市街地の道路状況と交通事情についてであります。現在、六軒町の道路拡幅と交通渋滞についてはどのように進めていかれるのかお考えをお聞かせいただきたいと思います。

2点目といたしましては、説明書の13頁、市街地についてであります。本市の中心市街地である館山駅周辺においては、市街地の拡大に伴い人口密度を強くしている状況にあります。そのような現況で道路、排水路等の都市基盤が不十分であり、居住環境の悪化、そしてまず懸念されることは防災上の問題であります。建築物の耐震、不燃物化、住宅建設の計画的な設計、人口密集地の避難の場所等々の対処についてはどのようにお考えか御方向をお示しいただきたいと思います。

3点目といたしましては、住宅環境についてであります。公営住宅については生活水準の向上に伴う質的水準の要請など考慮した整備を推進——特に館山市市営住宅についての問題点といたしましては、すでに老朽化した木造平家建ての笠名、大賀を中心に中層住宅の建てかえにきている時期と思いますが、この件については計画ではどのようなになっておられますか、また将来の市営住宅の取り組み方についての計画をお尋ねいたします。

4点目といたしましては、上水道についてであります。水の需要は今後さらに増加すると思われまじし、全地域に水の安定供給をめざし水源開発を促進するとしておりますが、62年ころを目途として事業を進めたいとしております。具体的には計画はどのようにお進めされるのかお

伺いたします。

なお、現在、三芳水道企業団との料金の格差、不均衡な料金体系、そしてまた渇水期における——昨日の答弁では富浦地区福沢に水源の可能性があるということでございますが、同ダムの建設はどのように進めていかれるのか。また、近い将来市営水道、三芳水道との一元化は考えられないか、この点どのように当局としてはお考えかお聞かせいただきたいと思います。

次に、5点目といたしましては、下水道についてでございますが、館山市ではかつて終末処理場の設計図をつくったことがあります。ふるさと千葉5カ年計画では事業推進による下水道普及率は40%の達成としております。また、富津、君津、木更津では実施段階にあると聞いておりますが、この点は御承知でしょうか。

国の総合開発計画では、2000年までに手をつけていく方針であるということでございまして、この点も御承知かどうか伺いたす次第でございます。内需拡大に努力するとして公共事業の拡大を図り、そして地方債の活用等により下水道事業の追加を含め、地方単独事業の円滑な成果を期待すると国としてはそのように打ち出しておりますけれども、この点いかがなものでしょうか。

当市においては、第6次の国の計画に組み入れるということでございますが、積極的な姿勢をお示しいただきたいと思います。

第6点といたしましては、河川についてでございますが、河川の浄化は県当局に積極的に要請し、特に2級河川の汐入川、平久里川の汚濁につきましては除去、しゅんせつ、その他の河川についても適切なる処置を進めていただきたいと思うわけでございます。住民意識も最近是非常に高まって、河川の浄化に対する対応については当局としてはどのようにされますか、その点伺いたしたいと思います。

7点目といたしましては、「地域の個性が生きる人間性豊かな文化教育都市をめざして」ということでございますが、大学進学率の上昇と高学歴社会への移行、有用な人材育成、地域教育水準の向上、新しい人材育成、文化創造の場を形成するとともに、大学など高等教育機関の設置を図るというふうになっておりますが、特に短大程度の誘致についてお

考えたいと思いますが、この点いかがなものかお聞かせいただきたいと思います。

最後の観光の振興を図るというところですが、ふるさと千葉5カ年計画においては南房パラダイスの整備、南房総における花を中心とした観光ネットワークの拠点であるとしてその充実を図るとしております。当市としてはあわせて平砂浦地帯の観光開発を行うべきであると思いますが、この点はどういうふうに進められていきますかお聞かせいただきたいと思います。

千葉県の観光拠点としての南房総の観光開発は、館山市の責任でもあると思われます。四季型観光の確立、県の観光振興課におきましては南房総ブロックにおいて観光振興について海浜リゾート都市として釣り橋等、釣りの施設、あるいはまたヨットハーバー等の施設などの多様化を計画しておるということでございますし、また釣り公園等も検討されておるということでございますが、この基本構想の中でどのように取り組んでいかれますかお尋ねいたします。

以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 安西議員の御質問にお答えをいたします。

館山市基本構想に関連しての御質問でございますが、第1点は、道路、交通体系についての御質問でございます。六軒町周辺の道路拡幅について今後計画の中でどのように進めていく考えかという御質問でございますが、御承知のとおり駅前周辺の交通緩和のために現在館山バイパスあるいは八幡高井線の事業を進めておりますが、今後駅前周辺の交通対策については市街地再開発事業、モデル商店街事業等の中で検討しながら今後関係者との十分なコンセンサスを得て実施すべきであると考えております。

次に、住宅密集地域の防災対策についての御質問でございますが、市街地の人口集中地区の防災対策につきましては、現在進めております都市再開発事業の中で十分その建物等について検討をしてまいりたいと思いますが、当面は消防水利を充実いたしまして、自主防災組織の活性化を進めまして、火災、地震等に対する防災意識の高揚を図り、地域ぐる

みの防災体制を進めていきたいと考えております。

次に、住宅環境に関連いたしまして、老朽化している大賀、笠名の市営住宅建てかえについての御質問でございますが、これにつきましては入居者に建てかえの必要性をよく理解していただくために十分な話し合いをもち、財政事情等を考慮しながら耐火構造建物に建てかえをしたいと考えているところでございます。

次に、上水道につきまして、三芳水道と市水道の一元化の御質問でございますが、現段階では圏域も違いますし、過去の経緯や分担関係及び技術面でも難しい状況にございますが、将来的には統合が好ましいと考えております。3市町村に係る問題でもございますので、水源開発問題等を契機として一元化への機運をつくり出すよう意をもちいてまいりたいと考えております。

次に、公共下水道についての御質問でございますが、国の公共下水道に関するいろいろな計画については承知をいたしております。公共下水道については昭和61年度から始まる第6次5カ年計画にぜひとも入れてもらうように現在要望しているところでございます。公共下水道事業を実施するに際しましては、特に逼迫した財政事情の中での財源の確保と生活用水に事欠く現状での水源の確保等が大きな問題であり、これらを解決しながら受益者のコンセンサスを得て進めていきたいと考えております。

河川の浄化につきましては、本年度から衛生課を廃止しまして生活環境課を設置をいたしましてこの問題に真剣に取り組んでいきたいと考えているところでございますが、今後生活環境課、建設課と関連課におきまして十分協議の上で事業を進めて河川浄化に努めていきたいと考えております。

次に、大学の誘致の問題でございますが、大学等高等教育機関の誘致については、市民に強い要望があることは十分承知いたしているところでございます。しかしながら誘致の条件にも厳しいものがございます。いろいろ調査といいますか、聞きましたところでは、4年制大学を誘致する場合に10万坪の敷地と10億円の現金を自治体を用意しなければならぬというような大変厳しい条件もあるように伺っているわけでござ

ざいます。そうした事情から財政負担や立地条件等に厳しいものがござい
ますので、地域の文化向上、活性化につながる大学の誘致については
機会を得まして実現の方向で推進をしてまいりたいと考えております。

次に、南房パラダイスの拡充と平砂浦地域の観光開発についての御質
問でございますが、県立の南房パラダイスの拡充については本年5月シ
ンガポール国立植物園と姉妹園の提携をし、館山はもちろん南房総の観
光の拠点としてより魅力ある植物園にしていく県の方針であるというふ
うに伺っておりますが、市といたしましても県に対して積極的に取り組
むよう要望してまいりたいと考えております。

また、周辺の平砂浦地域につきましては、大きな公園化構想の中で今
後考えていきたいと考えております。

次に、海釣り公園、釣り桟橋等についての御質問がございましたが、
御案内のように館山市は地形的に三方海に囲まれておりまして、その海
岸線は31.5kmに及んでいるわけでございます。この海の利用は漁業
のほか夏の海水浴場と遊漁船が主なものでございます。今後観光資源と
しての海を有効に生かすため、漁業関係者と十分協議を進めながら、漁
業振興にもつながる海洋性リゾートタウン計画をまとめまして、その中
で海釣り公園、釣り桟橋等についても検討してまいりたいと考えており
ます。

以上、答弁を終わります。

○27番（安西益男君）　まず、1番目の市街を中心とした道路網、交
通関係についてでございますけれども、現状では非常に、千葉銀行館山
支店から松田屋さんへ行くところ、それから裏側のずうっと四角になっ
た範囲の非常に道路が狭い、常に車が渋滞しているという状況でござい
ますので、この点の見通しといいますか、道路拡幅なりあるいはまた交
通網の方向について具体的に計画を立てられていかれるのか、現状はど
んなふうに見ていますかその点ひとつお聞かせいただきたいと思います。

それから、3番にいきまして、住宅関係でございますけれども、いず
れにしても大賀、特に笠名はもう耐用年数も過ぎておると思いますが、
3階あるいは4階というふうに当然進めていくかと思っておりますけれども、
現段階の時期といいますか、それはいつごろ予定されておりますか、お

わかりでしたらお聞かせいただきたいと思います。

それから、4番目の水道の件でございますけれども、現在具体的にどこからどのようにしてというようなことがはっきりしてないんじゃないか。ということは、九重が今、地元では非常に反対が強いというふうに聞いておりますので、それにかわる水源の確保、この点は今どんなふうに進めていけますか。あるいはさらに専門家にこれを診断させるかどうか、そういうようなお考えがあるかないか。

それと、また三芳水道との一元化、これは可能な問題であろうというふうに思うわけでございますけれども、いずれにしても同じ地域に料金のバランス、また時期によっては、去年ことしにかけて渇水というようなことで片方は水の心配あまりない、三芳は非常に特に去年、ことしにかけては非常に困難な状況にあったわけでございますので、そういった点の解消、あるいはまた館山の市営水道の水の不足という場合もまた出てくる可能性もあるかと思っておりますので、そういった面ひとつ富浦の水源の確保が可能というふうな見通しのようでございますので、その点もあわせて一元化については極力進んでいっていただきたい。時期をみてというようなお話でございますので、なるべく早いそういった方向の検討を重ねていっていただきたい、こう思うわけでございます。水道についてはそのようにひとつ進めていっていただきたいと思います。

それから、公共下水道この点も大分以前からの懸案事項でございますし、またこれを21世紀までには何でもやっていこうという姿勢、それをまず確立していくことが大事かと思うわけでございます。いずれの自治団体におきまして非常に長期にわたって実行されておるわけでございます。15年とか20年とか、あるいはそれ以上に長い期間にわたってやっているというのが今の自治体の方向かというふうに思うわけでございますので、この点もひとつ——近くでは木更津等でも実施に移されるというようなことも聞いておりますので、どうかその点ひとつ。また県の方向としても先ほど40%達成というようなこともありますので、そういった点で積極的に進めていっていただきたい、かように思うわけでございます。

それから、大学の誘致の件でございますけれども、せめて短大ぐらい

程度の計画は検討してみる必要はあるのではないかというふうに思うわけでございます。木更津等にもございますし、また都会の大学等に行きますとその場で就職をしちゃうということで、非常に若い層の人たちの流出といいますか、そういったものの歯止めという面からも、さらにまた経済的な面からも近くでそういった学校があれば大きく希望者がおるというふうに認識するわけでございますので、こういった点もひとつ今後検討していくということでございますけれども、さらにまた検討させていただきたい、このように思うわけでございます。

それから、観光面につきまして、非常に館山の場合は観光にかなりの重点を置かなければならない、そういった地域条件あるわけでございますので、この観光面に対しても今いろいろ釣り桟橋とか、あるいはまた釣り公園とか、ヨットハーバーということもさらにさらに検討してみて、何らかの方法で少しでも観光に役立つという検討を重ねていただきたい、こう思うわけでございますので、その確認の点を若干お聞かせいただきたいと思います。

◎経済部長（吉岡政雄君）　お答えをいたします。

まず、第1点目の道路、交通体系のことでございますが、現在、ただいま市長から御答弁申し上げましたとおり、銀座振興会等がモデル近代化事業の基本計画を策定が終わりまして、現在実施計画を移す段階に至っております。この中で国道127号は都市計画道路といたしまして12mというものが基本的な線になっております。御指摘の鏡軒の裏の通り、この問題も含めましてモデル商店街等の近代化の中で、実施計画の中で取り上げていきたい、このように承っております。

それから、2番目の住宅問題でございますが、大賀、笠名の建てかえの時期ということでございますが、現在木造の老朽化しております戸数が1種におきまして14戸、2種におきまして91戸あるわけでございます。先ほども御答弁申し上げましたとおり入居者の方々の御理解を得ながら、3層なり4層の耐火構造の建物にコンセンサスをいただいた中でできるだけ早い時期に建てかえを一応考えていきたいというように現在は考えております。

それから、公共下水道につきましては、御要望だと承ったわけござ

いますが、21世紀に向けまして御要望に沿うように努力してまいりたいと考えております。

次に、最後の観光の面でございますが、御承知のとおり平砂浦にはそれぞれ県の観光施設ですとか、また今進出をしておりますサンランド等がございますが、いずれにいたしましても58年、59年と2カ年にわたりまして建設省が主体となりまして房総南部の開発計画設計が行われたわけでございます。この中で非常に館山も取り上げられておりまして、市長御答弁申し上げましたとおり公園化ということも考えておられますので、これもやはり21世紀に向けまして大きな構想を持った公園化ということが期待できるのではないかと、このように考えておりまして、南房総の観光の拠点になるということが考えられる現在ではないかと思っております。

以上、終わります

◎水道課長（石井敏夫君） 4点目の九重地区の関連につきましてお答え申し上げます。

九重地区で反対をしておられるけれども、それにかわる水源の確保はどう進めるのかという御質問がございましたが、現在九重地区とは折衝中でございますし、現在の地下水の水源に見込みがないという決定までは至っておりませんので、今後さらに規模を——取水の規模でございますが、変えてまでも地下水の有利性がございますので、ぜひ努力してみたいというふうに考えております。

もし、地下水の取水ができないということになりますと、きのう市長から御答弁申し上げましたように他の方法に変えなければいけない、その場合にはダムや海水の淡水化等考えられますし、今後の検討課題であろうと思います。

次に、三芳水道との一元化の関係で、富浦の水源の確保が可能のようだがどうかというような面がございましたが、これにつきましては三芳水道企業団におきまして本年から62年ごろを目途にいわゆる調査をしていくというようなことを聞いております。したがって、その調査に基づきまして館山市の将来的な水の不足量と三芳水道の不足量、それらを賄うに足る水源が1カ所でできるとすれば、これは経済性もありま

すし、結構なことだろうと思います。そういうようなことで三芳が調査しておりますけれども、果たして水源が同一にできるかどうか疑問でございますので、その辺は検討課題として十分留意していきたいと思います。

料金の格差、渇水対策、これらにつきましては、料金格差は合併することによってなくなることは当然でございますが、当然水源が確保できるまでの間は、渇水対策等につきましてはお互いの水の融通——相互援助と申しますか、そういうことや河川からの揚水、これらで対処いたしていかなければならない、こういうふうに考えております。

◎市長公室長（斎藤武男君） 大学の誘致の関係でございますが、今回の総合計画作成の中でも、住民の意識調査の中では大学の誘致ということは極めて強い要望があったわけでございますが、現実的には大変厳しい状況だということでございます。

ちなみに申し上げますと、昨年５９年に発表されているものでございますけれども、大学誘致の希望の市町村名が一応公表されているわけでございますが、これは国土庁の学園計画地のライブラリーというようなことで登録されている関係のもので出ているわけでございますけれども、４５都道府県のうちの４０７市町村、候補地が４９１地区ということでございまして、地域の新しいシンボルというようなことで、地域の振興のためにということで各市町村が非常に希望が多いわけでございますけれども、大学の立地の関係がいろいろ非常に難しく、大変難しい状況である、しかしながら今度の新計画の中でも前向きに検討していきたいということで考えておるわけでございます。

◎２７番（安西益男君） 水道の件ですけれども、一元化については、どうでしょうか、今まで理事者を交えてそういった協議したことがありますかどうか、市長からひとつお聞かせいただきたいと思います。

それから、淡水化ということで県ではこの安房とか夷隅を検討されているように聞いておりますけれども、この淡水化ということは非常に電気料金が、ものすごくコストが高いということですが、この点の検討は市としてはされたかどうか。そういったことについてお聞かせください。

それと、観光推進については、去る6月27日に市町村の観光主管課長等が集まって検討したというふうなことが当時新聞に出ておりましたけれども、そういったことがあったのでしょうか。その点お聞かせいただきたいし、またその時期にどんな観光問題が話されましたか、その点もしおわかりでありましたらお聞かせいただきたい。

◎市長（半澤良一君） 三芳水道と市水道の一元化につきまして、理事者間で話し合ったことがあるかというお話でございしますが、正式には話し合ったことはございません。ただ、館山市としてどうも水道の料金が一本化されない点は非常に不都合があって困るんだ、何とか一元化できないものかというような、雑談的にはそういう話を話し合ったことはありますけれども、正式の議題として取り上げたことはございません。

◎水道課長（石井敏夫君） 淡水化についての御質問でございしますが、市として検討をしたかというようなことでございます。海水淡水化につきましては県がふるさと千葉5カ年計画の中で昭和62年までに調査をし、それ以降にプラントをつくろうという1つの企画を持っているわけでございます。したがって、県の淡水化につきます協議と申しますか、そういうものは受けましたし、また茅ヶ崎に800トンの通産省の実験プラントがございしますが、その施設も視察をいたしました。

一応、淡水化そのものの基礎的なものではございますが、検討はいたしてございます。確かに電気料が相当にかかるということと、それから淡水化のためには逆浸透膜という膜を使いますが、その膜の交換に相当費用がかかるというようなことで、経済性の面で問題が今のところあるんじゃないか、コスト的には償却費を除きましてトン当たり300円程度かかるというようなことがいわれております。これらにつきましては県との関係がありますので、これからさらに検討をしてまいりたいというふうに考えております。

◎経済部長（吉岡政雄君） 6月21日の担当課長会議ですか、観光課長会議、あったかというお尋ねでございしますが、私、日記は持っておりませんが、私の知る範囲においてはどのような内容があったかということとは承知しておりません。

◎27番（安西益男君） あと1点です。三芳の一元化については、市

長のお考えは、将来どんなふうに考えていかれるか、それをひとつお聞かせいただきたいと思います。

◎市長（半澤良一君） 基本的には、一元化すべきだと考えておりますが、先ほど申し上げましたようにいろいろな問題点がございますので、これを解消していくのには相当の時間がかかるのではないかと考えております。

◎議長（流山源次郎君） 以上で27番議員君の質疑を終わります。

次に、1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

◎1番（神田守隆君） 議案の第54号館山市基本構想を定めることについて御質問いたします。

昭和75年を目途に基本構想を定めようとするものでありますが、提案説明によりますと、「南房総に多大なインパクトを及ぼす東京湾横断道路は昭和61年に着工されようとしています」「私たちを取り巻く環境は画期的な動きをみせ、大きな時代の転機を迎えようとしています」と書かれているわけでありますが、東京湾横断道路は館山市と市民生活にとってどんな影響を及ぼすものと考えておられるのか。ここでいう転機とはどのような転機ととらえられておられるのか御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問させていただきます。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

東京湾横断道路が当市に与えるインパクトにつきましては、残念ながらいま1つ明確を欠くわけでございますが、本年9月に公表されました日本道路公団による東京湾横断道路調査の中間報告によりますと、経済調査の項目の中で、南関東に果たす貢献として、新たなニーズに対応した居住空間、レクリエーション空間の創出としているわけでございますが、また、交通機能として京浜と房総地域の直結機能、さらには首都圏中央連絡道路等の整備から一次産品の販路の拡大、観光農業、観光漁業を含む観光の発展、工場立地の適地性の向上等が挙げられております。

本市といたしましては、これらの多様な影響を積極的に受けとめ、メ

リット、デメリットを見極めながらまちづくりを進めていきたいと考えているところでございます。

終わります。

◎1番(神田守隆君) なかなか明確な、内容がはっきりしないという御答弁で、現在いわれておるところのお話があるわけですが、私もこの東京湾横断道路の問題というのは、非常に大きな影響を及ぼすものではないかというふうにも思うわけで、それがどういう影響を及ぼすかということによっては、この館山市の持っている基本的な性格、それ自身変える可能性を秘めているんじゃないかなんかというふうな気がするわけで、それだけになかなか明確さを欠くという点が非常に残念なことなんであります。

端的な話、館山市というのは安房郡市における政治、経済あるいは文化の中心都市としての役割を担っていたわけでありましてけれども、こうしたいろんなものを読んでいきますと、首都圏におけるスポーツレクリエーションゾーンだとか、首都圏構想の中での位置づけが極めて強くなってくる。あるいは木更津を中心とした核都市というような構想の中で、場合によっては木更津の近郊都市というような性格をこの館山市が担ってくるんじゃないかなんかというふうな見方もできるわけなんで、その辺についての見方が必ずしもはっきりしないというふうなことで、現在のところ館山市の方向としてやはり安房郡市における中心都市という性格とともにこの首都圏におけるレクリエーションゾーンというふうな首都圏計画の中での位置づけが大変強くなってくるんじゃないか、こういうふうにするんですが、その辺はいかがお考えでしょうか。

◎市長公室長(斎藤武男君) 東京湾横断道路に関係しますインパクトというものは、ただいま市長から申し上げましたように、南の関係につきましてはいま1つという感じでございます。特に、即それが期待できるものはいわゆる道路体系というものが東京湾横断道路と関連して127号バイパスの関係でありますとか、あるいは410号、409号の関係の問題でありますとか、そういう道路体系というものがあわせながら整備されるであろうということが見えている話でございますけれども、その中でただいまお話しのような南房総レクリエーション開発というよ

うなことで、東京湾横断道路に関連しまして南の位置づけがそういう形でされておるわけでございます。

○1番（神田守隆君） 言葉としては出てくるんですが、具体的に南房総開発に向けて一定の公共的な国家資金の投入なり、そうしたもののというのは南房総のレクリエーション地域化というようなことで具体的にどの程度のもを検討されておるのか。そこになると具体的にはよくわからぬというようなことで、例えば道路問題にしましても、それほど大きな道路の改良工事が行われるわけではなくて、聞くところによれば南房総地域というのは首都圏道路計画全体の中ではそれほど重視されているところではないし、それほど資金も投入される地域ではないというふうに私ども理解しているんですが、レクリエーションゾーンというような位置づけの中で具体的な計画や何か、あるいはそういうような計画の段階までいかないまでも何らかの話や何かがあるのかどうか、お聞かせを願いたいと思うんですが。

○市長公室長（斎藤武男君） 東京湾横断道路の関係の、いわゆる工事の関係につきましては、そのもの自身も現在第3セクターというようなことでございまして、他の関係につきましては全く見えていないわけでございます。

その中で、ただいま申し上げましたような南房総レクリエーション開発ということで東京湾横断道路が果たすインパクトというものは、南地区に対しましてはいわゆるこの道路ができた場合には現在の3230万から5232万になりますよと、あるいはその観光施策の必要なものとしましては自然を生かしたスポーツレクリエーションの場の整備でありますとか、花卉類の観光化でありますとか、房総ならではの味覚づくりでありますとか、温暖な気候を生かしての半定住施設の整備でありますとか、京浜市民の森、村の整備でありますとか、そういうような言葉の中の表現でございまして、それらに対する具体的なものがいま1つないということで、私どもは考えて見ておるわけでございます。

したがいまして、この横断道路に対する今後の働きと申しますか、効果と申しますか、そういうものにつきましては、十分考えながらこれらの関係について積極的に折衝していかなくちゃならぬというような考え

方に立っておるわけでございます。

◎議長（流山源次郎君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（流山源次郎君） ただいま議題となっております議案第54号及び議案第55号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（流山源次郎君） 日程第3、議案第56号乃至議案第58号を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（流山源次郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

2番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（2番議員田沢勝信君登壇）

◎2番（田沢勝信君） 議案第57号昭和60年度館山市国民健康保険特別会計補正予算について御質問いたします。

提案説明によりますと、高額医療費支給の増加に伴う予算の補正でございますが、いまだ少し高額医療費支給の実情について御説明を願います。

第1に、高額医療費支給がふえていく傾向にありますが、その理由はどのようなものか御説明をお願いします。

第2に、高額医療費支給の例を個別に見た場合、大変高額に及んでいるものがあると聞きますが、今年度支給された例を大まかな金額ランク別に件数をお示してください。

第3に、高額医療費については、社会福祉協議会からの貸し付け制度があるわけですが、今年度の実績はどのようなになっているのかお聞かせ

願いたいと思います。

以上、3点について御説明をいただきたいと思います。答弁によりまして再質問をいたします。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 田沢議員の御質問にお答えをいたします。

昭和60年4月診療から8月診療まで月1件100万円以上の高額な医療費は27件となっており、疾病分類別に区分しますとがんなど新生物12件、脳梗塞などの循環系の疾患11件、その他4件となっております。

これを医療費段階別に区分しますと、月1件100万円以上200万円未満20件、2730万5830円、200万円以上400万円未満3件、819万1150円、400万円以上4件、1828万5500円、合計27件、5378万2480円となっております。

また、館山市社会福祉協議会に委託してあります館山市高額療養費貸付事業の貸し付け状況でございますが、昭和60年11月30日現在19件、663万1000円の貸し付けを行っております。

以上、答弁を終わります。

◎議長(流山源次郎君) 以上で2番議員君の質疑を終わります。

次に、1番議員神田守隆君。御登壇願います。

(1番議員神田守隆君登壇)

◎1番(神田守隆君) 議案の第56号昭和60年度館山市一般会計補正予算第3号についてお尋ねをいたします。

議案書の17頁、生活保護費の増額補正7605万3000円についてお尋ねをいたします。議案説明書の8頁によりますと、生活扶助費が1228万8000円で当初見込み330人が決算見込みでは370人ということで40人ふえるということであります。同じく医療扶助が5976万円、当初見込み400件が430件にふえる、こういうことでございますが、こうした生活扶助あるいは医療扶助がふえてきている内容についてどのように分析をされておられるのか御説明をいただきたいと思うわけであります。

次に、議案書の20頁、公有財産購入費ということで2828万30

00円の増額補正であります。同じく説明書の10頁によりますと、八幡高井線用地の購入費であることがわかるわけでありましたが、この都市計画街路八幡高井線の用地買収の現況はどうなっておるのか、面積で計画に対して何%の進捗状況になっておるのか、今後の見通し等含めまして御説明をいただきたいと思うわけであります。

次に、議案書の23頁、学校建設費ということで館野小学校の校舎増築工事の請負費が計上されております。説明書の11頁によりますと、軽量鉄骨づくり2階建て165平米、普通教室2ということで建設されるようでありましたが、急速こうした形で補正予算が出され増築することでありましたが、なぜ急速増築することになったのか御説明をいただきたいと思うわけであります。

以上、3点にわたって御質問いたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、生活扶助でございますが、当初予算編成にあたりまして、人員につきましては前年実績、扶助費につきましては前年実績の3%増を見込みまして、1ヵ月330人で1人当たり2万7200円を計上したわけでございますが、4月から9月までの状況を見ますと、月平均370人と約12%の増加を示しているわけでございます。

次に、医療扶助につきましては、前年実績に対しまして2.3%の増を見込んでおりましたが、医療費の値上がりと高額な医療受給者も数件出ましたことなどから約15%の増が見込まれるわけございまして、生活扶助、医療扶助ともに増加の傾向にあるわけでございます。

次に、都市計画道路八幡高井線についてでございますが、本線につきましては昭和56年度から事業着手をいたしまして、毎年国庫補助金を受けながら買収事業を進めているところでございます。幸い、徐々にではあります。地権者の御理解と御協力を得まして各年度の買収目標等を達成することができ、昭和60年12月現在、面積で申し上げますと国道127号から杉井工業所までの間で58%強の買収率となっております。

次に、館野小学校校舎増築についてでございますが、館野小学校に入学することになっております同地区の人口から推計をいたしますと、現在の普通教室の9室に対しまして61年度は2教室、62年度は1教室と2年にわたり不足が見込まれますので、これが解消のため2教室を増築しようとするわけでございます。

なお、63年度以降においては、教室の不足は解消することになるわけでございます。

以上、答弁を終わります。

◎1番（神田守隆君） 生活保護をそれぞれ——当初、生活扶助が3%の増加を見込んでいたところが12%増加ということで、これは当初見込みをかなり超えた形で出てきているわけですが、この点について何か分析をされておれば、その内容をもう少しどのような傾向なのかお聞かせを願いたいと思うんです。

と申しますのは、大変市民の暮らしぶりが苦しくなっているということも、いろいろな面で私もそういう場面に遭遇するわけでして、それだけに行政の方でこうした市民生活の実態の一端をどういうふうに把握されておるのかというような点でこの問題をぜひ考えていただきたいと思うわけで、その辺についての分析をされておれば御説明いただきたいと思うんです。なければならないということで結構であります。

それから、八幡高井線の進捗状況58%ということですが、これの見通しについてはいつごろというふうにお考えであるのか、その点1点だけ御説明いただきたいと思います。

それから、館野小学校の校舎増築の問題であります。61年度でも2教室、62年度では1教室というような不足が見込まれる、こういうことですが、現在お聞きするところでは、特別教室などを転用して何とかやりくりをしているというようなお話も伺っているわけですが、館野地区は館山市の中でも人口がふえている地区だろうというふうに思うわけですから、それなりに予測の難しさ等もあろうかと思うんですが、それにしても補正予算で急遽出されたというところに釈然としないものを感じるわけでして、当初予算の段階で予測できなかったんだろかというそういう疑念を持つわけで、その辺で当局のこの問題に対する把握

が弱いのではないかなという疑念を感じるものですから、なぜ当初予算の段階ではこの問題が出せなかったのか、そこいらの事情等がありましたら御説明をいただきたいと思います。

◎民生部長（鈴木 力君） 生活扶助の関係でございますが、本年度に入りまして保護人員が当初見込みより増加した理由でございますけれども、一般的に生活保護世帯全般を見ましてもいわゆる障病世帯というのが全体の93.4%を占めておる、こういうことでございまして、いわゆる病気にかかった世帯、これによって生活に困窮する、こういう状態のものがふえた、こういうものによるものでございます。

なお、59年度から従来のいわゆる格差縮小方式が改められまして、一般国民の消費支出の伸びを基礎として改定を決定するところの消費水準均衡方式というものが採用されることになりまして、このため60年度におきましては額におきまして2.9%の基準額の引き上げが行われた、こういう状況でございます。

◎経済部長（吉岡政雄君） 八幡高井線の見通しということでございますが、この仕事は御存じのとおり国庫補助を仰いでの仕事でございますので、関係官庁の方をお願いをいたしまして、できるだけ補助金をたくさん早くつけてくれというようなお願いをしながら、できるだけ早い時期に完成をしていきたい、このように考えております。

◎教育長（福原 修君） 児童、生徒の把握が甘いんじゃないかという御指摘でございますが、現在は御指摘のとおり特別教室を3教室転用いたしまして、急場をしのいでいるわけでございます。

館野地区は、御承知のとおり出る生徒もありますし、入ってくる生徒もございまして、それから現在の生徒の推移から見ますと、昭和63年度には解消されるという見込みも立っておりますし、校舎をつくるかどうか、これは非常に巨額のお金がかかりますので、非常に判断難しいんでございます、それでわれわれ躊躇しておったんでございますけれども、現状を見まして、財政状況を見まして、どうしても来年度はブレハブながら2教室をつくった方がよからう、このように判断いたしましたので、市長の方に懇請いたしまして補正予算でお願いした次第でございます。

以上でございます。

○1番(神田守隆君) 学校の問題ですが、私もいろいろお話を伺ったところが、この9月から、第2学期からですか、1クラスふえたというようなことから教室不足が1つふえた、3教室不足だというようなことで話を伺ったわけですが、そうすると考えようによっては、2人ですかふえた生徒が、ほんのわずかの生徒がふえて急速補正予算を組むということになったというふうに理解をするんですが、本当に1人、2人の生徒のことで大変微妙な問題があるかと思えます。

確かに、当局としてはなかなか微妙な考え方に立っただろうと思うんですが、しかし教室が現実にもその時点でも2教室不足していましたし、それが3教室になったからあえて補正予算というふうな考え方をするとするのは、教育問題というのは施設整備というのは非常に大事なことですから、もっと補正というよりも教室不足が現実にあることはわかっていたわけですから、当初予算の段階で、あるいはもっと早い段階で、こと教育に関しては優先的に施策をとるべきじゃなかろうか。

教育長さん、市長さんに対していろいろ予算の問題等勘案してというようにお話でしたが、市長さんやはり教育問題——教室というのは基本問題ですから、やはりこうしたことに対しては格段の配慮をお願いしたいと思んですが、そういうことでお願いできませんでしょうか。

○市長(半澤良一君) 神田議員から言われるまでもなく私は教育を大変重視してまいったところでございますが、神田議員も十分御存じのとおり、今1学級45人定員でございますが、2人以上になると2教室になるということで、大変微妙な問題でありますし、長期的に見ますと63年度には解消することがはっきりわかっておりますので、ここ2、3年の間のために3000万なり4000万の投資をすることが一体いいのかどうか、大変苦慮いたすところでございます。私は現行を選んだわけでございます。

○議長(流山源次郎君) 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告しない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） ただいま議題となっております議案第56号乃至議案第58号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第4、請願第6号農業用水からの流水占用料徴収反対に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（流山源次郎君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（流山源次郎君） 次に、請願趣旨につき紹介議員の説明を求めます。

（12番議員石井 謀君登壇）

○12番（石井 謀君） 請願第6号農業用水からの流水占用料徴収反対に関する請願書の紹介をさせていただきます。

請願の要旨及び理由については、ただいま朗読したとおりであります。が、補足的に紹介をいたします。

建設省案によりますと、2級河川以上の流域の農地から流水占用料10㌦当たり250円を徴収しようとするものであります。本市における該当地域は平久里川、汐入川、長尾川流域約1100㌦に及んでおります。農業者から新たな負担を強いられる結果になるわけでございますが、現状の農業情勢を御理解いただき、満場の皆さんの御賛同を賜りますようお願いを申し上げ、御紹介にかえさせていただきます。

○議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） 本請願書につきましては、建設経済委員会に

付託いたします。

請願書の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第5、請願第7号半澤市長問責決議及び監査の請求を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（流山源次郎君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（流山源次郎君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 去る8月の臨時市議会において、半澤市長はみずから減給処分の実施を提案、可決されました。この減給処分の意味について、市長は、上司としての管理責任を感じたためでございます、懲戒処分をしなかったための責任ということではございません、と御答弁をされております。1700万円もの公金横領をした職員を懲戒処分しなかった責任はお認めになりませんでした。

懲戒も免職が相当であるかどうかは別といたしまして、少なくとも1700万円もの公金横領はたとえ返済されたとしても懲戒の必要はないというものではありません。市長は依願退職で制裁の意味は十分あったと主張されましたが、依願退職はもともと懲戒処分ではありません。もし、そういうことを言うならば退職した市職員の方々に大変に迷惑なことだと言わなければなりません。

市長が何らの懲戒処分をしなかったのはやはり間違いだと言わなければなりません。市議会として、この点を明らかにしてもらいたい、これが半澤市長問責決議の意味するところでございます。

また、同時に第2項で議会の監査請求を求めています、これはこの問題での事実関係を明らかにするなどの監査を求めようとするものであります。

市民多数の関心を集めている問題であり、ぜひとも御賛同いただきたく御紹介を申し上げます。

○議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） 本請願書につきましては、総務委員会に付託いたします。

請願書の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第6、請願第8号国立病院・療養所の存続・拡充を求める意見書の提出を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（流山源次郎君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（流山源次郎君） 次に、請願趣旨につき紹介議員の説明を求めます。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○2番（田沢勝信君） 請願第8号の御紹介をいたします。

御承知のように、国立病院、療養所は、今日まで総合医療あるいは特殊疾患、難病、長期慢性疾患の専門医療機関として、県の公衆衛生向上に広く貢献してまいりました。

現在、千葉県内には9カ所の国立病院、療養所がありますが、請願者であります生命と健康を守る市民の会の事務局がございます千葉東病院も県下唯一の結核の基幹病院として、またあわせて重症心身障害児、小児慢性腎炎、ネフローゼ、肺がん、側わん症を初めとする脊椎疾患の治療を中心とする長期慢性疾患の病院として県下全域より患者さんを受け入れているとお伺いしております。館山市の住民も数名入院しているとお聞きしております。

ところが、厚生省は、本年国立病院、療養所の統廃合をし、地方自治

体あるいは民間への移譲の長期計画を策定し、本年度は松戸、柏の国立病院を統廃合する指名をしてまいりました。

今日まで国立病院が果たしてきた公衆衛生向上の役割から申しまして、この計画は地方自治体の負担の問題、あるいはまた地域の医療サービスを受ける問題点、大きな問題があるというふうに思います。

今、全国の地方自治体では、以上のような観点から85%に及ぶ自治体でこの請願の決議をいただき、また県内でも県を初めとする24の市町村の決議をいただいております。どうか当議会におきましても請願趣旨に賛同いただき、採択をしてくださるようお願い申し上げまして、紹介にさせていただきますと思います。よろしくお願いします。

○議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（流山源次郎君） 本請願書につきましては、文教民生委員会に付託いたします。

延 会 午前11時24分

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明18日から20日まで委員会での議案審査のため休会、次会は12月21日午前10時開会といたします。

その議事は議案第54号乃至議案第58号に係る委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 議案第53号乃至議案第58号
- 1 請願第6号乃至請願第8号